

今日の福音の内容を忠実に考えてみましょう。

100匹の羊を飼っていた人が1匹を見失ってしまった。その1匹を捜すために99匹をそのまま残して捜しに行った。見失った1匹を見つけたら喜んで、近所の人や友達を呼んで「一緒に喜んでください」と言った。という話ですね。

羊というのは群でいれば離れないのだそうですね。ですから99匹のことは心配しないで1匹を捜しに行くことができました。

ところで、私たちはどちらに属しているのでしょうか？離れた1匹の羊でしょうか？それとも99匹の中の1匹でしょうか？ある意味では私たちは離れた1匹に属します。何十年間信仰生活を送っていても、弱い。神様の前では離れた1匹です。99匹は自然に自分（イエス様）のことばに従うものだから心配しない。そういう安心感があったのでそのまま残しておいて、見失った1匹を捜し回った。「捜し回る」と表現されていますよね。

なぜ私がその捜し回られる1匹なのでしょう？毎週日曜のミサも守っているし、時々施しもしているし、憎んでいる人もいない、意地悪もしていないのに、なぜ私が保護者から離れている1匹といわれるのでしょうか、と質問する人がいるかもしれません。冷静に考えてみますと、私も逃げ場がなかったです。司祭の立場・身分で今までやってきましたが、私はいつも離れている気がします。私たちがみ国に行くまでは同じ気持ちなのではないかと思えます。

皆様をお願いします。今1匹を捜しているイエス様は遠い所にいるのではなく各自に呼びかけている。「どこにいるの？」と走り回って捜している相手が、皆さんですよ。こういうことを受け入れたら、自然にへりくだる心を持つことができます。

それを拒んで、私は99匹に属しますと言ったら、イエス様をいつも批判したファリサイ派の律法学者になります。これが二千年間教会が教えてきたことです。身分・立場は関係ありません。私はいつもイエス様にとっては見失った1匹です、という心が必要です。これがあれば感謝の心が生じます。私のためにイエス様がガンバッテいらっしゃるんだと思うから。

今日の福音は教会から離れている人のことを言っているのではありません。

教会にきている私たちに対しての神様のみことばです。私たちはいつも神様が呼びかけている羊です。「私はここにいます。主よ早く来てください」という祈りが必要ではないのでしょうか。

私たちが何かを考える時は客観的になるように、何かことがおきた時、家族・親戚・友だちということを超えて、カトリック信者として正しいのはどちらかと考えねばなりません。何も考えずに人々と同じように動いたら、これを「流される」と言います。絶対に流されないように。まず信仰、それから良心に基づいて判断しなければなりません。私たちの信仰生活の中でも家族や隣近所との関わりの中でも同じだと思います。もしまちがった判断をしたら、どのような結果がでますか？

人を裁くでしょう。「あの人はなぜ、従わないのか？」と。しかしイエス様はおっしゃいました。裁く資格のある人はこの世の中にいないと.....。

何か判断するとき、まず信仰に基づいて考えてみるべきです。信仰に基づくとは愛です。そして正義、次に自分の良心に基づいて判断しましょう。

ありがとうございました。